

網津公民館だより

令和6年
12月号

いよいよ師走となりました。公民館だより12月号をお届けします。

<第5回成人講座：ハンセン病元患者とその家族の人権について> 11月2日(土)開催

第5回成人講座は、人権学習講座「ハンセン病元患者とその家族の人権について」を開催いたしました。講師は法泉寺住職 藤井慶峰さん。当日は雨の降る中、10名の方々に集まっていただきました。

館長挨拶のあと、藤井さんからハンセン病の歴史、国としての隔離政策に渋沢栄一も絡んでいたこと、ハンセン病の特効薬が開発され、治る病気になっても既得権益を守るため、隔離政策を続けたこと、生々しい迫害の実態など目を覆いたくなるような事例をいくつも語って頂きました。

「もういいかい 骨になっても まーだだよ！」自分の両親のお墓に入りたくても拒否される現実。藤井さんに質問「差別をなくすにはどうすればいいのですか」との問いに、「人から聞いたことを鵜呑みにするな！自分の目で真実を追求せよ」この言葉が心に残りました。



<第6回生涯学習講座：俳句を楽しむ会>

第6回生涯学習講座「俳句を楽しむ会」は、7名の参加で開催しました。

本年度最後の講座は、宇土俳句協会から坂本真二・節子ご夫妻、田代幸子さんを招いて、俳句のあれこれを話して頂きました。

主な話は以下の通り。

◎俳句の3つの基本①五七五の17音②季語を1つ入れる③切れ字(や、かな、けり等)は1句につき1つまで ◎川柳との違いは季語が入るか入らないかで決まる ◎俳句をたしなむなら「歳時記」(季寄せ)は持っていた方がよい ◎俳句は正岡子規から始まった、などなど。

この後、受講生が作った句の添削を行いました。主な添削結果は以下の通り。

原句①「メダカ取り 転ばぬように 杖を持つ」

添削「杖持て 転ばぬやうに メダカ捕り」

原句②「引いて満ち 小さき月の いたずらか」

添削「干満に 月の悪戯 ありにけり」

原句③「嫁ぐまで 残り少ない 母との話」

添削「嫁ぐまで 母と語らふ 秋桜」

講座が終わり受講生からは「目からウロコ、本当にためになった」など感謝の言葉が寄せられました。

今回で生涯学習講座全6回がすべて終了しました。受講生の皆さま、参加ありがとうございました。

11月13日(水)開催



<第4回青空教室：親子マジック教室>

第4回子供地域活動「親子マジック教室」は5組の親子が参加し、合計11名で始まりました。

講師は、熊本市を中心に活動されているマジシャンの向井明彦さんです。

まず、手のひらに置いたコインが、自由自在に消えたり現れたりするマジックを披露、全員のどよめきと共に心を驚掴みにされました。

その後、黒いフェルトの上に置いた500円玉を重ねた透明なカップと普通の紙コップをかぶせて、魔法のおまじないをすると見事に消えてしまうマジック。

その他にも、透明ペットボトルの中に入れたストローが浮遊するマジックなど、多くのマジックを教えて頂きました。

向井さんに「子供たちがマジックを覚えると何に役立ちますか？」と問いかけると「コミュニケーション能力の向上、自分なりのストーリーを考えるようになる」との答えを頂きました。

種明かし後に、子供たち全員が出来るようになるまで懇切丁寧な指導をされる姿が心に残ります。子供たちからも保護者の方からも「楽しかった。また、やってほしい」との声を頂き、あっという間の1時間半の講座は、無事終了しました。

11月16日(土)開催



☆12月の予定☆

第5回青空教室：クリスマスリース作り 講師=澤田 久恵さん(12月14日)

<館長からのメッセージ>

今年最後のメッセージは「私の健康法」をお届けします。春先に携帯を買い換えました。この時、スマートウォッチも購入し、アプリで一日の運動量を設定しました。題して「10Kムービング」。一日10,000メートル、16,000歩超え。歩いても走っても動けばすべてOK。これをずーっと続けています。これを始めて10日で体重の増加は止まりました。

晴れの時は屋外、雨の時は家の中をグルグル。単純なので心が折れそうになることもありますが、生涯現役を目指して続けています。最後に、今年も大変お世話になりました。来年もよろしく願いいたします。

良いお年をお迎えください。

網津公民館 ☎0964-25-0500 (月～土の午前中)